

平成 28 年度 第 2 次寄附者設定テーマ事業公開審査会

9 月 15 日 (木) 午前の部

【審査結果発表】

(毎熊審査委員長)

点数は審査員 5 人の合計点で、一番高いのが「チームマンモ」。続いて「島根県重症心身障害児 (者) を守る会」で、今回は枠が 2 件ですので、2 団体を採択させていただきます。おめでとうございます。残りの 2 団体の方は大変残念ではありましたが、どうもありがとうございました。

ご説明いたしますと、最低限 7 割ということにしております。5 人で 250 点ありますので、175 点が一応の合格ラインということになります。残念ながら 1 団体目、3 団体目が合格ラインにいていませんけれども、通常こういう審査会で 6 割を上限にすることもありますので、6 割を超えていて甲乙つけがたいという中で 2 団体選ばれたという事でご理解いただければと思います。

このあと各団体については、各委員さんから講評いただきまして、そのあと最後に全体的な講評させていただきます。

【個別講評】

＜外国人介護人材確保（留学生・実習生受け入れ）のための課題検討事業＞

(森山委員)

団体の強みを生かして、社会的な課題である介護人材の不足に挑まれるというアイデア、社会的な意義というのは非常に感じさせていただきました。一方で今回の事業内容が調査というものでしたので、その調査の必要性と調査結果の活用がポイントになってくると思います。

そうした中で、具体的にどのような調査をするのかとか、その結果を地域の他団体と共有してどのように使っていくのかという所の具体性が少し計画上欠けていたのかなという部分が、今回の結果に表れているのかなという風に思います。

意義は十分感じさせて頂いている所でございますので、事業計画をしっかりと練っていただいて、この事業を何らかの財源で進めていただければと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

＜医療依存度の高い子供の就学・通学に関するシンポジウム＞

(平木委員)

今回お話を伺って、初めて訪問で教育を受けている子供たちがこれだけいるという事を知ることができました。私と同じようにそういう現状があるっていうのを知らない方もまだまだ多いのではないかなと思います。

ただ、こういう現状を知ってもらってそれを解決して行くというのはとても大切な事でもあると思います。質問もさせていただきましたが、大切なことではあると思うのですが、その効果を図っていくというのはなかなかすぐに出るものではありませんし、難しいところもあると思います。今回採択になりましたので、事業をきっかけにして次の取り組み、来年度以降の取り組み方も考えながら実施して頂ければと思います。

<誰もが楽しく参加できる介護予防事業>

(山崎委員)

「自立できるふるさとを創造する会」ですけれども、個人的に気になったのですが、20万円を今回受けられて、もし受けられた場合とそうでない場合、どのように事業に変化があるのか、どういう風に20万円を役立てていくのかというのが、ちょっとわかりにくかったのかなというように思いました。

ただ、私事ではあるのですが、町内会、自治会の関係の仕事もさせて頂いておまして、こういったご高齢の方の元気というのが地域の活性化にもものすごくつながると思いますので、この会の方だけでなく、地域住民であるとかいろんな方を巻き込むような、そういった工夫であったり、そういったものがもう少し明確化されていると、結果はもうちょっと変わっていたのかなという風に個人的に思いました。

<乳がん対策普及啓発事業 ～ピンクリボン つながりのはじまり～>

(石原委員)

「チームマンモ」の今回の「乳がん対策普及啓発事業～ピンクリボン つながりのはじまり～」こういう言葉を初めて耳にしたわけですが、私自身自慢にならない、一度も乳がん検診受けておりません。この文書の中に「バスタイムはバスタイム」の普及という言葉にすごく魅力を感じました。

一人で不安がっている女性も沢山いると思いますので、ぜひこの「バスタイムはバスタイム」を全女性が楽しくバスタイムできるような流れができれば早期発見につながり、今、色々な方が乳がんと戦ってらっしゃいますので、そういう方々を目にしておりますので、ぜひこれからも広がりを見せていただきたいと思います。今回のお金を有意義に使っていただけるのではないかなと期待しております。

【全体講評】

(每熊委員長)

それでは最後に全体的に一言申し上げたいと思いますけど、全体をまとめてというのはなかなか難しいですね。

あえて申し上げるならば、皆さんの解決しようとしている課題ってものすごく大事な課題が多いですね。今回改めて痛感させていただいた。ただ、所詮1団体で出来ることなんて限られているというような課題が多いと思うのですね。そうであるとすれば、3つぐらい大事なことがあって、一つは森山さんが言われたように、調査って非常に大事だけれども、調査の後どうしていくのかというところが問われるんですね。根底が見えるっていうことが大事なんです。一年先までうんぬんじゃなくて、五年先こうなって、十年先こうなってっていうのを見せていただきたい。これが1点目です。

2点目は、やっぱり1団体だけではどうしようもないので、多くの人とか多くの団体を巻き込んでいただくことが大事なことです。巻き込みをどうしていかれるのかというところを審査員として聞きたいということがありますので、先ほど聞かれた団体、そうでない団体、ぜひ巻き込みながらやっていただければと思います。そういう意味ではシンポジウムとか協議会とかだけでなく、普段からの情報発

信とか巻き込みとか大事だと思いますのでそこら辺のところもぜひ尽力いただければと思います。

大きな課題ですので、民間が頑張るのも大事ですけど、行政に積極的な手当てをしっかりとさせていけないことがある。そういった意味では、しっかりと活動をされ、それを形にされる。

重症心身障害児（者）を守る会の、アンケートどうですかと申し上げたとき、アンケートは答えがわかりきっているとおっしゃったんですけど、わかりきったものをデータとしてしっかりと示して、行政に持って行ってこうなんだということを言うっていうのは大事だと思いますので、そういうデータを集めてしっかりと行政に声を届けていく、あるいは議会、政治の代わりに届けていく。これを専門用語でアドボカシーといいますけれども、そういった活動もぜひ心がけて頂ければなと思います。

採択されなかった団体も、おそらく県庁次第の仕事がたくさんありますので、働きかけられて、NPO（活動推進）室を通していいと思いますので、今後とも行政を巻き込んでいただければと思います。

平成 28 年度 第 2 次寄附者設定テーマ事業公開審査会

9 月 15 日 (木) 午後の部

【審査結果発表】

(毎熊委員長)

(テーマにぎわいのある地域づくりは) 提案 4 団体のうち、採択枠は 1 団体ということで、3 団体は残念な結果になりますけれども、ここに点数が出ています。一番高いのは「まつえ・まちづくり塾」。202 点。250 点満点中の 202 点ということで、第一位をとられて「まつえ・まちづくり塾」が採択ということになりました。大変おめでとうございます。

その他の団体も点数としては非常に高い点数を取られてるんですけど、あくまでも採択枠が 1 枠だったということで、総体的に 1 位のまつえ・まちづくり塾になるということです。残念な結果ではありませんけれども、ぜひ事業実現に向けて頑張ってくださいと思います。

もう一つのテーマ (経済の活性化) の方も結果から出しておきましょうか。提案 1 団体中の採択 1 団体ということですが、先ほどのテーマと同じですけど、最低は 70%。250 点満点中の 70% なので、175 点を最低のラインとして審査しました。それを明らかに超えられていますので、採択という結果になりました。大変おめでとうございます。

それではこの後、審査員一人一人から 1 団体ずつコメントをさせて頂いて、最後に全体講評ということで僕の方から一言申し上げたいと思います。

【個別講評】

＜日本遺産認定 出雲国たたら風土記「奥出雲の魅力とロマンに迫る」講演会＞

(山崎委員)

では、「出雲神話語り部の会」について述べさせていただきたいと思います。

提案書と今回プレゼンテーションを聞かせていただいたのですが、限られた時間の中、限られた書面の中でどういった事業をされたいのか、効果がどうなのかという明確性というところで、もうちょっとうまくお伝えすることができたんじゃないかなと。やっておられる活動の内容自体は非常にいい事をしておられるので、先ほど委員長もおっしゃっておられたように、4 つの申請があって、たった一つの枠を争うということになっていましたので、今後もぜひ活動して頂いて、こういった機会があればどんどん申請をして頂きたいなと感じました。

＜島根・鳥取「(仮称) 山陰・地域魅力体験プログラム」

ポータルサイト開設と運営事業＞

(毎熊委員長)

採択されていますので大変コメントしやすいんですけど、プレゼン自体は横綱相撲のような感じがして、大変しっかりと聞かせていただきました。ありがとうございました。ただ事業の中身としては質疑でも出ましたが、ポータルサイトを作って、ご承知のとおりだとは思いますが、ポータルサイトを作るだけじゃあまり変わらないだろうなというのが委員の中で出ていて、その後の運営というところ

が問われるんであろうという風に思います。

とりわけ僕が感心しておったのは、やっぱり色々なところで面白い試みがあるなど。やっぱり本質はしっかりと親として保障しようじゃないかと。クオリティーチェックしようじゃないかということでしたので、ぜひ厳しい目で全体運営をしていただければと思います。

<いずも多文化・にぎわいのある街づくり事業>

(森山委員)

NPO法人エスペランサの講評をさせていただきます。大変惜しい結果になったかと思います。ボーダーラインを超えております。ただ、1枠というところで涙をのむ結果となったんですけども、もし、もう少し点をあげていただくということのアドバイスをさせて頂くのであれば、これまでやってこられたこと、その実績というのは十分おありですので、今回20万円というお金、少額ではありますがけれども、これを投入することによって昨年までやっていたことと、少し変化が見られたり、その効果が分かるような形。そういった具体性のご提案がいただけると、もう少しいい点に結び付いたんじゃないかなという気もしておりますので、また引き続き活動を続けて頂ければと思います。どうぞよろしくお願ひします。

<島根半島四十二浦巡りの旅推進事業>

(石原委員)

「島根半島四十二浦巡りの旅推進事業」の発表の方ですけれども、本当に島根は他のどこの県よりも自然豊かな海あり山あり、最高の土地柄だと思います。こうして今回示してくださった四十二の神社を見ましたけれども、まだまだこの数に乗ってない神社が数多くあると思います。こういうことを機会に、地元の方が少しずつ勉強されて、我が地域に眠っている資源をもっともっと活用できるような、そういう方向へも手を差し伸べていかれたらこういう事業がたくさんの人に認められて、県外からもどんどん、大社だけじゃなく、たくさんの方が訪れて活性化につながることだと思いますので、今後もコツコツと事業を続けていってほしいなと思います。

<商店街活性化「まちあそび人生ゲーム」実施事業>

(山崎委員)

「人生ゲーム」について、僕最初にこの提案書を見てすごいワクワクして、凄く楽しそうな企画だなという風に正直思いました。委員の中の話でも出てたんですけど、今商店街の凄く厳しい現状があつてですね、これを一つの成功例、先進事例として県内にこういったイベントをいい方向に、追い風じゃないですけど、いい方向に向かっていくことができれば、今ちょっと厳しい状態に立たされている商店街を活性化させる起爆剤になるんじゃないかなと。個人的には興味のある、面白そうな企画でございました。

【全体講評】

(毎熊委員長)

もうすでに委員さんの中から出ていたと思いますけど、今日皆さんの発表を聞いてそれぞれの団体がいろんな活動をされていて、素晴らしい活動だなんて随分思ったんですね。ただ、テーマが決まった上での審査ですので、そのテーマにどれくらい忠実というか、そこがどれくらい果たせるかというところが問われるわけなんで、そこがちょっと差がついたところかなという感じがありました。

それにも関わるとは思いますけど、最近このNPO業界というのか、民間のチームの活動みたいなので流行っている言葉があるらしいです。ソーシャルインパクトというのが随分流行ってますね。社会的な効果ということですね。みなさんの活動がどういうふうに地域社会に効果があるのか、あるいは課題をどれだけ解決できたのかというのがいろんな基準で問われているようになってきています。それをおそらくやる側としては、特に今回のように寄附という形でお金を使う場合には、やる側として説明していく必要があると思うんですね。どこの団体さんも仕掛けた効果とかを把握されるということはなかなか難しい分野になると思いますけども、しっかりと心がけて頂けるといいなという風に思いました。

最後に、毎回この審査で思うんですけど、団体さん同士がいろんな形でコラボしたり、交流とかできるともっといいのかなと思っていたりしますので、そこらへんも期待したいと思います。